

## 平成 27 年度 横浜市つたのは学園 事業報告

平成 27 年度は 4 月に 5 名の養護学校卒業生、2 月末に地域の方の利用希望があり最終的には 39 名の在籍数となった。障害程度区分平均が 4.9（平成 26 年度 4.8）となり、障害の重い方の通所利用となっている。登録者 39 名に対しての平均出席率は 77.8%であり平成 26 年度に比べ 1.3%増となる。これは平成 27 年度の利用開始となった利用者の出席率が良いことが考えられる。

職員の専門性を高めるため、積極的に研修に参加し、専門誌の定期購読誌の購入を行った。また、同法人内の日中活動の様子や地域の施設見学の機会を設けた。

### 1. 平成 27 年度事業の重点項目について

#### (1) 利用者の受け入れについて

平成 27 年度は、養護学校実習生を前期 6 名、後期 3 名を受け入れ、利用した実習生から 3 名が平成 28 年度の当学園利用につながる事となった。また、電話による利用相談、問い合わせが 5 件あり、1 名が平成 27 年度末に当学園利用につながった。

#### (2) 日中プログラムの充実について

39 名の利用者が二つの班に分かれて活動している。第 1 班は障害の重度化・多様化等により医療面の助言が必要となったことから当学園看護師と連携を強化し、地域の医療機関からの助言を受け個別支援を行った。

第 2 班は、刺繍、農作物、陶芸・缶潰しの作業を個々の利用者が参加しやすいようプログラムを再構築し支援を行った。

#### (3) 関係機関との連携について

横浜市長津田小学校や長津田地区センターとの関係は継続した。自立支援協議会の相談部会や地域力アップ部会・緑区の社会福祉協議会主催で行う福祉施設等分科会へ参加し福祉関係機関との情報交換を行っている。今後も地域の情報を収集し職員で共有していく。

#### (4) 第三者評価の受審について

平成 27 年度は「アクティブ ケア アンド サポート」による第三者評価を受審した。受審することで当施設の状況を再確認し、家族の思い等を再認識することができた。今後の運営に役立てていきたい。

#### (5) 人権・権利擁護の取り組みについて

横浜ふくしネットワークの委員として活動し、その活動・会議内容を職員会議で報告し共有を図っている。他の施設へ訪問し施設職員と交流する事により、当学園の日々の活動や支援の振り返りをする機会となった。

年間 10 回、オンブズパーソンの施設訪問があり支援に対する感想や疑問を聞くことができ、その内容を職員間で話し合い課題等を共有している。

横浜市社協、県社協が開催している権利擁護に関する研修会に参加し人権に関する意識の向上を図っている。また、職員は「障害者虐待防止チェックリスト」により自己点検を行った。

### 2. 管理面について

#### (1) 職員体制について

ハローワーク、横浜市人材センターへの登録、施設近郊チラシ配布、ポスター掲示等により人材確保に努めている。法人との連携を行いインターネットサイトによる求人活動も行った。また、職員の人脈を通して、非常勤事務職員 1 名、常勤支援員 1 名（女性）を採用することができた。11 月には非常勤職員男性 1 名を採用し職員体制を整えた。

(2) 職員への情報提供と専門性の向上について

研修会には積極的に参加した。研修に参加した職員が発表する伝達研修を行い、情報の共有化を図った。「強度行動障害の支援・危機介入」の報告は、職員同士で実際に体験し、良い雰囲気の中で行うことが出来た。

また、支援課長が講師となり利用者の基本的な障害特性、福祉制度等の勉強会を行った。また、利用者の今後の地域移行を含め、同法人内のグループホーム見学や制度の勉強会を実施した。研修のみならず法人内・地域の施設の日中活動を見学し日々の活動に生かすことが出来た。

また、6月には法人内借恵いわまワークス施設長による「総合支援法について」の研修会をおこなった。他の施設職員も参加し交流する良い機会ともなった。

(3) 環境整備について

施設内（事務所 5 か所、活動部屋等 9 か所）の内線電話工事をを行い、館内放送もできる機能を付加し職員の負担軽減と業務の効率を上げることができた。

学園バスの経年劣化により補助席、後部ドアの修理を行い安全に走行できるようにした。この修理費は修繕費予算の3分の1を占め今後の備品等の維持管理に課題が残る。

今後も環境整備として各所修繕を横浜市担当職員と相談しながら、安全に効率よく実施するよう計画していく。

利用者の活動や休憩場所に利用しているホールの老朽化したソファの交換を行った。

(4) 送迎体制について

送迎のアルバイトを増員し職員の送迎負担の軽減を行い、事務整理や会議等の時間確保を行った。また、平成 28 年度に向けて、学園バス運行業務委託の見直しを行い、学園バスと自宅送迎の一部を業務委託できるように業者の選定を行った。

(5) 平成 28 年度の指定管理予算について

横浜市障害支援課障害支援係と平成 28 年度の指定管理予算の調整を行った。利用者数の目標値、施設整備、利用者の状況、今後の方向性等について確認をした。機能低下している利用者のおむつ交換場所や緊急時対応の部屋の確保等、課題をあげた。

その結果、平成 28 年度にはおむつ交換部屋含む医務室の改修工事が予定されている。

3. 支援面について

(1) 利用者について

活動は 2 班体制に分かれており、第 1 班は体力、健康、身体機能維持を中心とした活動を行っている。第 1 班の入浴支援は、高齢の家族の希望も多くあり、家族負担の軽減になっている。また、個々の利用者の障害の状況に合わせてウォーキングをプログラムに取り入れている。排便を促す効果や体重のコントロール効果が出ている。

第 2 班は、利用者の希望や障害特性に細かく対応できるよう昨年度に引き続き 3 グループに分かれ支援を行った。活動内容は畑仕事、缶潰し、刺繍、陶芸等の製作を行なっている。製品は施設内の展示販売を始め、近隣の郵便局、法人内ふれあいショップ等で販売した。野菜は、施設内の玄関ホールで販売を行った。その中で缶潰しの収益は大きく年間で 63,990 円となった。この活動で得た収益を 3 月に全利用者に工賃として還元した。

(2) 送迎について

39 名中 36 名の方が当施設による送迎を利用した。学園バスによる 3 か所の駅送迎の他、その他の公用車にて週 2 回の自宅送迎を実施した。自宅送迎は神奈川区から大和市の広範囲にわたり公用車 5 台の走行となっている。

平成 28 年度家族の送迎負担を考慮し、週 3 回の自宅送迎実施を送迎委員会が中心となり検討した。

### (3) 健康医療について

常勤看護師による毎朝の利用者のバイタルチェックにより、健康状況が把握でき病気、怪我等の予防、事故発生時の対応にもスムーズに対応できている。家族からの健康相談や体調不調の状況も看護師の視点からアドバイスできるため家族の安心感を得ている。

また、嘱託医による毎月の健康相談、年 1 回の歯科検診を行い検査結果から受診治療につなげることができた。課題となっていた婦人科健診は初めての為、支援側が必要と思われる利用者へ優先的に説明し実施した。年 1 回の健康診断やインフルエンザの予防接種も例年通り実施した。

毎月発行している「ほけんだより」には個々の体重や血圧の変化を記入し個別に配布しており、家族の方が利用者の健康状態を把握することに大いに役立っている。

## 4. 各事業について

### (1) 短期入所事業について

偕恵の短期入所システムは施設再整備工事の為 6 月に受け入れ中止となったが、偕恵いわまワークスの協力により毎月の利用回数を 1 回から 2 回に増やし、高齢の家族のレスパイトや地域移行の準備として計画的に利用している。

### (2) 日中一時支援事業について

週 1 回の利用登録者は 2 名であるが、実際の利用は週 1 名となっている。16:00 以降の利用が年々増えてきており、124 回の利用実績となった。希望があれば、夕食のみならず入浴支援を行った。

## 5. 行事について

### (1) 利用者旅行について

利用者旅行は例年通り 2 班に分かれ実施した。退職者、教育実習生、法人事務局、法人内他事業所からの協力があり実施することができた。横浜市福祉バス利用の抽選結果を待ってのホテルの予約調整は職員の負担があり課題が残る。

### (2) 食事会について

平成 27 年度は 12 グループに分かれ近郊のレストランの協力により実施することが出来た。外食機会の少ない利用者には楽しみの一つとなっている。

### (3) プール活動について

毎年 8 月上旬の 4 日間を隣接している横浜市長津田小学校のプールを借り活動した。地域の方からライフジャケットを借用し延べ 65 名の利用者が安全に楽しむことができた。

### (4) クラブ活動について

クラブ活動（お風呂クラブ・調理クラブ・ドライブクラブが 3 グループ、乗り物クラブが 2 グループ、写真クラブ）が毎月 1 回行われ、各クラブ 5 名～8 名が参加し活動している。小集団での活動の為、利用者の希望を反映することができ好評である。

年 1 回、クラブの日帰り外出では、学園バスを利用し各班が利用者の意見を元に沼津港やマザー牧場、葛飾柴又、箱根の足湯などに外出した。また、乗り物クラブではロマンスカーに乗車し楽しむことができた。

### (5) もちーふ（喫茶店）について

毎月 2 回木曜日に長津田地区センターでボランティアの方による喫茶店が開催される。喫茶店では各自で注文できるように配慮され利用者も毎回楽しみにしている。また、利用者にとっては注文や支払い経験の場所となっている。

## 6. 家族・家族会について

平成 26 年度は隔月の実施であったが平成 27 年度からは毎月 1 回第 4 金曜日の午後開催となった。当日は横浜市の担当職員も出席し新しい制度の情報提供を行っている。当施設からは活動や利用者の状況、法人の動き等の情報提供を行っている。

家族の高齢化が進み体調不調や入院する方が多くなり、今後の利用者の生活場所の不安が出されている。

## 7. 地域の連携と交流について

### (1) ボランティアの受け入れについて

#### ① 手芸ボランティア

毎週 1 回 3 名の地域のボランティアが延 121 回来てくださり、活動で制作した作品を縫製し製品化している。

#### ② 陶芸ボランティア

週 1 回来所し利用者への技術指導や作品の仕上げを行っている。延回数 48 回となった。また、利用者旅行に参加している。

#### ③ 支援ボランティア

週 1 日水曜日に 2 名のボランティアが来所し各班に 1 名ずつ入り活動している。

#### ④ あすなる会

年 1 回 8 月に地域の 3 校の中学生と施設開放日に当施設を利用している団他の方が主体となって演奏や合唱等が行われ、利用者が一緒に歌ったり踊ったりし交流が図られた。

#### ⑤ アニマルセラピー

地域のボランティアの方による年 3 回（6 月・10 月、2 月）施設内で犬と触れ合うことができる。

#### ⑥ 南米音楽の演奏シエラベルテボランティア

あすなる会やひな祭り会・つたのは祭りでの演奏

#### ⑦ 田奈農協青年部

さつま芋堀りの利用者の交流企画

### (2) 施設開放利用について

つたのは学園が活動を行わない土・日・祝祭日を施設開放日とし地域の方にホール及び園庭を開放している。少年野球部やサッカー・吹奏楽部・コーラス・民族楽器演奏部等 7 団体が利用している。

### (3) 長津田地区センター・つたのは祭りについて

毎年 10 月の第 3 土曜日に長津田地区センター・横浜市長津田小学校の当施設の 3 団体共催で実施される。平成 27 年度は雨天だった為来客数は平成 26 年度に比べ少なかった。スタンプラリーでは小学生も利用者と共にゲームを楽しむ姿が見受けられ交流が伺えた。また、初めての試みとして家族会協力のもとフリーマーケットに参加した。長津田小学校内で福祉体験コーナーを設置し車いすの体験ができるように企画した。

### (4) 災害時の回覧板を使用した取り組みについて

平成 27 年度も継続的に行われており、第 1 回目の回覧が 8 月に実施された。この活動は緑区社会福祉協議会が主催する福祉施設等分科会の取り組みである。今回は各施設で災害時に協力できる物品等の情報も載せた。また、防災だけではなく回覧板の有効利用として各施設のパンフレットやイベント情報、ボランティア受け入れ等の情報も同時に行いより交流が出来た。

## 平成 27 年度 横浜市つたのは学園 諸状況について

平成 28 年 3 月 31 日現在

### 1. 入退所の状況

入所者	入所年月日	入所前所属	退所者	退所年月日	退所後所属
男性	平成 26 年 4 月 1 日	養護学校	男性	平成 27 年 3 月 31 日	県外グループホーム
男性	平成 26 年 4 月 1 日	養護学校			
男性	平成 26 年 4 月 1 日	養護学校			
女性	平成 26 年 4 月 1 日	養護学校			
女性	平成 26 年 4 月 1 日	養護学校			
女性	平成 27 年 2 月 29 日	緑区・在宅			

### 2. 援護実施機関について

市内 7 区より通所中。市外は町田 1 名、大和 1 名。

地元の緑区からの利用者は、全体の 38.2%。

区	旭	泉	金沢	港南	港北	栄	瀬谷	鶴見	磯子	戸塚
男	1	0	0	0	1	0	4	0	0	0
女	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
計	2	0	0	0	1	0	5	0	0	0
区	中	西	保土ヶ谷	緑	青葉	南	都筑	神奈川	市外	合計
男	0	0	1	9	8	0	0	1	1	27
女	0	0	0	5	5	0	0	0	1	12
計	0	0	1	14	13	0	0	1	2	39

### 3. 年齢について

30 歳以上の利用者の割合は 58.8%を占める、平均年齢は 34.6 歳

	20 未満	20～29	30～39	40～49	50 以上	計
男	7	6	4	6	4	27
女	4	2	3	3	0	12
計	11	8	7	9	4	39

### 4. 障害支援区分について

生活介護事業 区分平均 4.9

区分	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
人数	0	0	2	13	13	11	39

### 5. 療育手帳の状況について

	A1	A2	B1	B2	合計
男	17	7	1	2	27
女	4	3	3	2	12
計	21	10	4	4	39

6. 身体障害の状況について

部位	視覚	聴覚	上肢	下肢	体幹	心臓
人数	1	0	2	1	2	0
等級	1級	2級	3級	4級	5級	6級
人数	2	3	1	0	0	0

7. 在籍年数について

10年以上在籍者 41.2%、3年未満 37.9%

	1年未満	～2年	～3年	～5年	～10年	10年以上	計
男	4	4	7	1	1	10	27
女	2	4	0	1	1	4	12
計	6	8	7	2	2	14	39

8. 利用者の出席率について

月	4	5	6	7	8	9		
稼働日	22	19	23	23	19	20		
出席率	80.0	78.7	79.2	78.9	77.6	78.7		
月	10	11	12	1	2	3	計	
稼働日	22	20	20	20	21	23	252	利用率
出席率	77.2	77.5	78.6	74.9	76.1	76.3		77.8%

※利用者登録者数に対する出席率

9. 日中一時利用の利用状況について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	12	10	11	6	12	10	8	6	10	11	8	20	124
人数	9	7	9	5	6	8	6	5	6	6	6	11	62

前年度比 1 件増

10. 短期入所連携システムの利用状況について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
泊数	3	4	1	1	1	1	1	1	1	0	2	2	18
人数	2	2	2	1	1	1	1	2	2	0	2	2	18

前年度比 20 人減

11. 教育実習生等の受入状況について

浦和大学 2 名、田園調布学園大学 2 名、聖ヶ丘教育福祉専門学校 2 名、YMCA 健康福祉専門学校 1 名 計 8 名

12. 養護学校生校外実習等受入の実施状況について

麻生養護 4 名、みどり養護 4 名、三ツ境養護 1 名 計 9 名

13. ホール・グラウンドの利用状況について

第 3 土曜以外の土曜日と日祝祭日に施設開放。

14. 苦情・事故報告について

【事故報告件数】

	骨折	誤嚥	所在不明	触法行為	食中毒	感染症	転倒 転落	怪我	その他	合計
平成 27 年度	1	0	0	0	0	0	2	3	10	16

※その他：公用車・・・7件 器物破損・・・2件 他害・・・1件

※事故報告中通院3名

【ヒヤリハット件数】

	骨折	誤嚥	所在不明	触法行為	食中毒	感染症	転倒	器物 破損	その他	合計
平成 27 年度	0	0	1	0	0	0	3	3	2	9

※転倒・・・怪我・打撲なし

【苦情】 苦情相談受付：保護者から相談 3件

15. 施設内・外研修について

・ 施設内研修 4回

- 6月8日(月) 「障害者総合支援法について・・・？」  
講 師 偕恵いわまワークス施設長 荒井忠氏  
参加者 横浜市つたのは学園職員・ワークス新人職員・偕恵新人職員  
その他
- 6月22日(月) 「後見的支援について」  
講 師 みどりの木陰後見的支援室職員 西尾瑞希氏  
参加者 つたのは学園職員
- 1月15日(金) 「障害者支援を行うことの意味」  
講 師 旭児童ホーム 児童指導員 平本讓 氏  
参加者 つたのは学園職員・養護学校教諭
- 3月5日(土) 「障害をもつ子供の家族と支援について」  
講 師 旭児童ホーム 児童指導員 平本讓 氏  
参加者 つたのは職員

- ・ 施設外研修 31回(延42人) 横浜市ふくしネットワーク関係：14回  
見学：4か所(22名)